

2024年12月15日説教

説教題：「慰めを待ち望む」

聖書：ルカによる福音書2章21～38節

・人としてお生まれになった

主を待ち望むアドヴェントの第三週、いよいよクリスマスを来週に控えたこの時、私たちが見つめるのは、ルカ福音書が物語る主イエスのお生まれになったときの出来事です。とは言っても、本日見つめる22節以下はどちらかというところクリスマス時期に目を通す機会が少なく、むしろ直前の羊飼いたちに天使が現れた記事や、天使ガブリエルの受胎告知の方がよく聞く箇所だと思います。実際先ほど聖書朗読がありましたが、冒頭で語られている内容につきましても、22節前半にあるように「モーセの律法に定められた彼らの清めの期間が過ぎたとき」、や23節にも「主の律法に言われている通りになった」とやたらと律法についてのことが語られており、いわゆるクリスマスっぽさとは程遠く感じます。

しかし、福音書の中でも最も長くクリスマスを描いて行く中に当たり、この「モーセの律法」、「主の律法」という言葉を繰り返し語ると言う事をあえてしています。クリスマスにお生まれになった救い主、神様の独り子であられるお方が律法の定めに従ってエルサレム神殿に来られた。このことをルカは強調して語るのです。

つまり主イエスは、救い主であり、神様の独り子であるにもかかわらず、ユダヤ人の赤子として、他の者たちと区別されることなく、律法に従ってエルサレムに来たと言う事です。クリスマスのその日、神の独り子はそのようにしてまことに人としてお生まれになったのです。まことの神であられるお方が、まことの人としてお生まれになった。ルカが私たちに伝えたいことはこのことです。

・シメオン

主イエスは赤子としてお生まれになったのです。神の子としての力を振るうすごい赤子ではありません。母の手に抱かれて眠り、何か言いたいことがあったら泣くような、そんな普通の赤子です。その赤子と出会った人々と出会う事を通して起こった出来事が本日の箇所には語られています。

一人はシメオンという男性、もう一人はアンナという女性です。見ていただければわかる通り、本日読んだ箇所のほとんどは一人目のシメオンと主イエスとの出会いのことが語られています。アンナのことはほんの3節にまとめられています。けれども面白いことに、語られている内容はシメオンの方が長いですが、シメオンについてわかっていることはアンナとは比べようもないほどに少ないです。アンナは年齢もはっきりと84歳であると記されていますし、女預言者で、若い時に嫁いで七年間夫と暮らし、夫に死に別れてやもめとして暮らしていると言う事が分かります。この人が、両親に連れられてエルサレム神殿に来た赤子の主イエスを見て、神を賛美し、方々に幼子のことを語り伝えたのです。

3節のボリュームとは思えないほどにいろいろなことが書いてあるアンナに引き換えシメオンは、実は年齢も不詳であり、なぜこの時エルサレムにいたのかも定かではありません。もしかしたらごくごく普通に暮らす青年であったと言う事だってあり得るでしょう。

そんなシメオンについてわかっていることと言えば次のことです。「この人は正しい人で信仰があつく、イスラエルの慰められるのを待ち望み、聖霊が彼にとどまっていた。そして、主が遣わすメシアに合うまでは決して死なない、とのお告げを聖霊から受けていた」という事です。彼は「主が遣わすメシアに会うまでは決して死なない」というお告げを受けていました。それは、高齢で四季が近いシメオンが、キリストに会うまでは生きながらえる、という意味ではないでしょう。むしろ、イスラエルの慰められるのを待ち望んでいたシメオンには約束が与

えられていたのです。それが「メシアに会うまでは決して死なない」という事です。この約束が与えられていたからこそシメオンは待ち望むことができたのです。シメオンが聖霊に導かれて神殿に入っていくと、ヨセフとマリアが幼子連れで来ます。聖霊の働きを通して、シメオンと主イエスとの出会いがここに起こっていくのです。

・救いを見た

そして彼はそこで救いを見ます。それが赤子の主イエスです。彼は主イエスを見るや否や神を賛美して言います。「主よ、今こそあなたは、お言葉どおりこの僕を安らかに去らせてくださいます」。つづけて「わたしはこの目であなたの救いを見たからです」と。シメオンを「安らかに去らせてくださる」のは「あなた」、つまり神様です。シメオンは自らを安らかに去らせてくださる神さまの救いを見たのです。赤子の主イエスを見つめて彼は「救い主」を見たとは言わず、「救いを見た」というのです。シメオンの両眼に映るのは赤子です。けれども、その赤子に彼は神さまの救いを見たと言っているのです。

これはクリスマス待ち望む私たちにとって非常に重要なことを言っていると言えるでしょう。誰しもが赤子の主イエスを見て、そこに神の救いを見ることが出来るわけではありません。もしそうだとするならば、エルサレム神殿ではこの時軽いパニックが起こることでしょう。シメオンのように、またアンナのように主イエスを抱き賛美する者が後を絶たないはずですが、誰が見ても主イエスが神様の救いであると分かるわけではないのです。しかしその中で聖霊なる神様の導きを通して、クリスマスにお生まれになった幼子は神さまの救いであると賛美する者たちが与えられていくのです。そしてまことに神様の救いを見つめた者たちは「安らかに去ることが出来る」というほどの「平和」を与えられるのです。

ここでいう平和とは人の力によって造りだすものではありません。主イエスによるまことの平和です。神様と人との間の平和、十字架において主イエスによって打ち立てられることになる平和の内に去ることができるとシメオンは言っているのです。この言葉からシメオンはしばしば老人であるにとらえられてきました。老い先短く、死が間近に迫ってきているその時に神様から約束を与えられ、その約束である主イエスを見つめ、救いを見て「これで安心して死ぬる」と言って死んでいくのだらうと思ってしまう。けれども、先ほど言った通りシメオンの年齢は何歳なのかわかりません。この言葉は、まだ若いものであったとしても、どのような者であっても語るることができる、いいえ、このように語るることができるところにこそ、本当の充足があるという言葉なのです。つまりシメオンの「安らかに去らせてくださいます」という言葉は死にゆく者が語る言葉ではなく、生きる中で多くの苦しみがあり、悲しみがあり、受け入れることができない不条理の中においても生きて語ることでできる言葉なのです。神様の独り子を通して、そこに神様の救いを見つめて生きるところにおいて私たちにも語ることでできる言葉なのです。

・慰め—生きるにも死ぬにも—

シメオンも、アンナも順風満帆な人生だったからこのように語ったり、神様を賛美することができたわけではありません。彼らの生きた時代も決して平穏な時代だとは言えないでしょう。ローマの支配のもとにあったユダヤで彼らは困難な時代を歩んだに違いありません。しかし、祖であるにもかかわらず、神の救いを見て彼は平和の内に生きて、この地上から去ることができたのです。

死ぬその時、人は自分の持っていたものすべてを失います。だから私たちは死を恐れます。安心して死ぬなんて死ぬまで言う事ができないはず。けれどもシメオンは、持っているものをすべて失ってなお、平和の内にこの地上から去っ

ることができたのです。

ハイデルベルク信仰問答という問答書の最初にこのような問いがあります。「あなたの生きるにも死ぬにもただ一つの慰めは何ですか」。答えにはこうあります。「わたしがわたし自身のものではなく、体も魂も、生きるにも死ぬにも、わたしの真実な救い主、イエス・キリストのものであることです」。わたしたち教会の者たちのことをキリスト者と呼びます。それはキリストの者という事です。私たちキリスト者にとっては、キリストに出会うことができれば、もう安らかに死ねるのです。キリストと出会った喜びや感謝をできるだけ多くの人たちに証して死ぬことができるのです。それはさらに言うならば、キリストと出会った私たちは死ぬその時まで、困難があろうとなかろうと、キリストを証して生きるのです。そしてその生涯においてこの方の平和の内に歩むことができます。これ以上の慰めはありません。

・クリスマスの主

シメオンとアンナは待ち望みました。シメオンはイスラエルの慰められるのを、アンナはエルサレムの救いをです。どんなに世の中が混乱する中でも、時間がどれだけ過ぎたとしても、ただひたすらに神さまの慰めと救いを待ち望みました。この姿にシメオンとアンナの信仰があらわれています。本日の礼拝はアドヴェント第三の礼拝です。アドヴェントとは到来という意味です。クリスマスのその日にお生まれになる神様の救いの到来を待ち望むとき、それがアドヴェントです。今の世の中にとってこの「待つ」という事はあまり好まれません。多くの人たちは待つことが時間の無駄だと考えています。私たちは待ちたいと思わないし、待つことに弱い者たちです。だから神様の御言葉の実現を待つことよりも先に自分たちで何とかしようとしみます。そしてそのたびに敗れてきた繰り返しが人の罪の歴史です。

しかしシメオンとアンナは待ち望みました。そして神様の救いに出会いました。これが教会の信仰です。人の目から見ればその歩みはおろかに見えるでしょう。目に見えないものを信じて、いつ来るかわからないものを待ち望んでいるからです。しかし、主イエス・キリストはクリスマスの日にお生まれになりました。そして私たちの罪の赦し、救いのために十字架の死へと歩まれました。そこに救いが成ったのです。さらに恵みに恵みを重ね、主はご復活されました。ここに、私たちの永遠の命に至る道が開かれたのです。この救いの御言葉によって示され、教会において歩む私たちは、シメオンやアンナと同じように、この目で、神様の救いを見つめているのです。